

TOPICS

多数の職員が参加したバイオセーフティセミナー

7月10日14時30分から2時間半にわたり、国立感染症研究所バイオセーフティ管理室長杉山和良氏による講演「バイオセーフティの考え方と実践 ― 国際的研究機関としての使命と責任 ―」が行われた。当所の研究者はもとより当所産業医宮崎医師、総務部門・動物管理部門の職員、衛生検査科・生物学的製剤センター職員、エネルギーセンター職員、七戸研究施設職員、海外病研究部（小平市）職員など、動物衛生研究所を構成する様々な職種の人たち80余名が熱心に講演を聴いた。参加した人の数及び職種の幅広さは当所における組織的なバイオセーフティの必要性への関心の高さを表すものである。

動物衛生研究所は、つくば市に所在する病原体を扱う一研究機関として、個人及び社会に対するバイオセーフティに万全を期す社会的責務があり、また国際的には馬伝染性貧血、豚コレラ、牛海綿状脳症（BSE）のリファレンスラボラトリーとして指定されていることなどから、国際的研究機関として通用するバイオハザード対策を行う使命、責任もある。

感染症研究所は、当所とは異なり、バイオセーフティ委員会、バイオセーフティ管理者などを配備し、組織的にバイオハザード対策に万全を期していることが具体的に紹介された。当日の講演会に参加した多くの人たちがそれぞれの立場から取り組まなければならない、また当所が組織的に取り組まなければならないバイオハザード対策について改めて考え直すきっかけとなった。

（細菌談話会幹事：江口正志（臨床疫学研究室長））



セミナーでは活発な討議が行われた

NHK 教育テレビ「サイエンス ZERO」の取材に協力

「冬に再発か？ SARS 新薬開発」と題した番組の取材で、タレントの真鍋かをりさんのレポートにより、動物のコロナウイルスに関する研究風景（電子顕微鏡の操作風景、コロナウイルス検査実験、コロナウイルスの培養、PCR 検査、シーケンス解析の手技など）の撮影が6月20日に行われました。この模様は7月9日に放送されました。当日は梅雨の中休みで天気が良く暑い日でしたが、そのような中を撮影に協力して下さった多くの方々に感謝申し上げます。（情報資料課）



放牧場前での撮影打ち合わせ